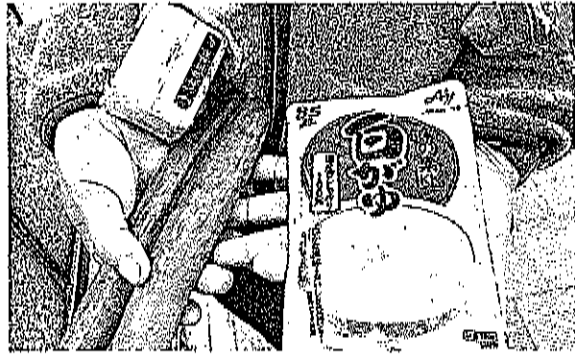


# 物価高の生活苦 家や職あっても



もやしが配布した食料品  
11月、東京都新宿区

## 子と並ぶ食料配布「抵抗ないわけじゃ」

食品から日用品、公共料金まで、値上げが止まらない。政府は物価高対策を打ち出したが、生活の苦しさは度を増している。(野間あり香)

東京都庁前で21日、認定NPO法人「自立生活サポートセンター・もやい」が食料を配った。幼い子ども2人と列に並んだ東京都西東京市の男性(36)はキウイやレトルトのおかゆ、パン、お菓子などが入った袋を受けとった。

「ここに来るのに抵抗がなかったわけじゃないけど、そもそも語ってられないから」

フリーのエンジニアとして働き、空いた時間はデリバリーのアルバイトも。収入は、エンジニアの仕事がないと15万円ほどの月もある。妻は体調が優れず、働けない。1

### 所得減税するなら「最低3年続けて」

経済ジャーナリスト萩原博子さんの話 物価高で特に困っているのは低所得者なので、政府が検討している非課税世帯への7万円の給付は評価できる。ただし、支給までに時間がかかってしまえば意味がない。もし所得減税をするならば、1年間だけでは生活の変化が実感できない。最低でも3年程度は続けるべきだ。

野菜の値段も上がっている  
1kg当たりの価格(10月16日の週)  
前回は半年前価格との比較

ねぎ 1219円 ↑43%	にんじん 607円 ↑43%
大根 268円 ↑27%	キャベツ 223円 ↑23%
白菜 309円 ↑29%	たまねぎ 284円 ↑8%

農林水産省の食品価格動向調査から

年前から急に生活が苦しくなった。食料品の値段が上がり、食卓では肉の量が減り、牛乳は低脂肪に変わった。今春から毎週、食料配布に通う。「クッキーをもらったらしい、野菜は買うと高いから助かる」

600人前後で高止まりが続き、この日は約710人が列をつくった。もやいの理事長、大西連さんは「ここ1、2年で支援を受ける層の変化を感じている。これまでは住む家のない失業者が目立ったが、今は家も仕事もあるけれど、生活が苦しいという人も列に加わっている」と話す。

### ガス代高く煮物せず

10月上旬、東京都足立区のスーパーに買い物に訪れた伴さおりさん(48)はため息をついた。「ガス代が高いので、煮物とか長時間火を使う料理はしなくていいです」

夫と子どもの3人暮らし。夏ごろからは、食品の値上がりも実感するようになった。買い物に行くときは約300円離れたスーパー2軒を回り、「野菜はあっちが安い」「牛乳はこっちが安い」。値段を比べ、安い方で買う。帝国データバンクによると、今年の食品の値上げは予定を含め3万1887品目による。帝国データバンクの担当者は「過去に品目ごとの大幅な値上げがあったが、全品目が複数回にわたって大幅に上がるのはパブル崩壊以降なかったのではないかと話す。ウクライナでの戦争を

背景に原油高が進み、あらゆる物の製造・運搬コストが上がっている。日銀が続けた「異次元の金融緩和」の影響による円安も大きい。最近はやearsの影響で野菜などの値段も上がっている。食品以外にも大手電力10社と大手都市ガス4社が10月請求分の家庭向け電気・ガス料金を前月よりも値上げ。政府の補助金が半減するのが主な理由だ。

### 3人家族の家計 10万円負担増加

みずほりサーチ&テック ロジックスの酒井才介氏

による10月時点の試算によると、原油高や円安など、23年度の家計(夫婦と子ども1人の3人家族)の負担は前年度比で平均約10万2150円増える。うち食料品の支出分は約9万3400円。酒井氏は「秋以降は物価上昇は緩やかになるとみられるが、賃金の伸びを物価の伸びが上回る状況は来年度前半までは続く」と話す。